

意見交換「親支援を考える ～子どもの姿を親にどう伝えるか～」

これまで、「親支援」について、様々な角度から検討を重ねてきました。

昨年度からは「幼稚園・保育園・こども園・小学校連絡会」を通して、子どもの成長過程で関わる関係機関がつながる仕組みづくりが整ってきています。

また、そのツールとしての「乳幼児期からのパスポート」についてご意見をいただきました。

現在の子育て世代の現状として、核家族化、地域のつながりの希薄化やワンオペ育児により、子育てに不安や孤立感を覚える家庭が少なくありません。また、共働き家庭の割合は66.2%（令和2年度厚生労働白書）となり、なかでも女性の就業率は68%を超え（令和3年度愛西市の妊娠届より）、年々増加している傾向にあります。しかし、子育てと仕事の両立ができる環境の整備は必ずしも十分ではありません。男性についても、30代～40代の子育て世代の残業時間数がほかの年齢層より高くなっています。

このような現状により、家庭で保護者が子どもとゆったりと関わる時間の確保が困難となり、保護者が子どもの姿を知る機会が減少してきていることが考えられます。

保育園や小学校等からは、子どもの姿を保護者と共有できないという支援者側からの相談が多々あります。保護者が家庭以外の生活の場での子どもの姿を知ることにより、保護者が主体となって地域とつながっていくために、今年度は「子どもの姿を親にどう伝えるか」をテーマに意見交換を行いたいと考えます。

【意見交換の内容】

- ① 保護者が子の姿をどう捉えているか日々感じる事
- ② 保護者と子どもの姿を共有するために実施している事
- ③ 保護者と子どもの姿を共有するために、今後の課題だと思われる事